

ごあいさつ

APUと大分合同新聞社は2017年秋より、包括的連携協定をもとに、大分を「知る」「生かす」「発信する」ことを目的とした連携講座をAPUアジア太平洋学部において開設いたしました。おかげさまで今秋2年目を迎えることができました。

本連携講座では、大分合同新聞社が創刊120周年事業の一環として連載・出版した『おおいた遺産』をテキストに使用し、大分地域の自然・文化の調査研究にかかわる第一線の講師陣を招き、現地見学を交えながら7週間にわたって授業を進めてまいりました。

講義と現地見学を経てこのたび、本連携講座を受講した36名のAPU学生がチームを組み、「おおいた遺産」を観光資源として活用した地域づくりのアイデアを取りまとめ、市民の皆様を交えた発表会をセミナーとして下記プログラムの通り開催させていただくこととなりました。

皆様の奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

主催者一同

プログラム

2018年11月14日（水）

別府市公会堂 2階大ホール（別府市上田の湯町6-37 電話：0977-22-4118）

13:00 開場

13:30 ごあいさつ

神足博美 大分合同新聞社特別顧問

13:35 課題提起「おおいたの国際観光競争力の実態とポテンシャル」

久保隆行 立命館アジア太平洋大学 准教授

14:00 APU学生によるプレゼンテーション

7チーム 1チーム各20分（質疑応答含む）

16:30 閉会

※本セミナーのお問い合わせ先：立命館アジア太平洋大学 学長室（広報）

Tel:0977-78-1114

ご参考（2018年度連携講座の概要）

10月3日（水）講義「神仏習合の里とヘリテージ」

▽神足博美 大分合同新聞社特別顧問

「おおいた遺産とは何かーおおいた遺産の概要、位置づけ」

▽高橋 徹 元大分県立歴史博物館長

「神仏習合の里～宇佐神宮、六郷満山の生成と歴史」

▽林 浩昭 国東半島宇佐地域農業遺産推進協議会長

「六郷満山と世界農業遺産～神仏習合の里の“現代”」

10月10日（水）国東半島フィールドスタディ

▽高橋 徹 元大分県立歴史博物館長（現地指導）

10月17日（水）講義「大野川流域と石仏文化」

▽豊田徹士 豊後大野市教育委員会副主幹

「ジオパークの誕生・石の文化のバックグラウンド」

▽山路康弘 大分県教育庁文化課指導主事（文学博士）

「大野川流域の磨崖仏・歴史と文化」

10月24日（水）豊後大野フィールドスタディ

▽山路康弘 大分県教育庁文化課指導主事（現地指導）

10月31日（水）講義「天領日田・咸宜園と小鹿田の里」

▽後藤宗俊 咸宜園教育センター名誉館長（別府大名譽教授）

「咸宜園の歴史・天領日田の文化経済」

▽貞包博幸 大分県立文化短大名譽教授

「小鹿田焼の歴史・民芸としての位置づけ」

11月7日（水）日田・鹿田フィールドスタディ

▽榎本讓治 大分学研究会代表（現地指導）

